

● サクラメント市との姉妹都市交流について

副団長 栗原 久子

私の担当である「姉妹都市交流」について、報告する。

平成23年7月、サクラメント市との姉妹都市提携30周年記念式典に、野志市長、寺井議長のほか多数の方が参加し、その間、「松山サクラメント姉妹都市協会」と「サクラメント松山姉妹都市協会」が中心に中学生派遣事業や高校生、ボーイスカウト、スポーツ団体など青少年相互派遣や高校・大学等、民間主体の交流も続いている。また、本市議会も、これまで多く先輩議員の方々も訪問し、交流を深めているところであり、私自身も2度目の訪問で、前回に続き更なる交流と理解を深めることとなった。

サンフランシスコ国際空港到着後、サクラメント市へ向け一路約2時間をかけバス移動。道中、サンフランシスコの様子や景色などを案内いただきながらサクラメント市到着。車中、ガイドさんの案内に、数年前に訪れた時の風景や当時のことを思い起こしながら、懐かしく感じる一瞬でもあった。



(サクラメント市庁舎 左:旧庁舎 右:新庁舎)

翌日、姉妹都市交流で度々松山を訪れていた「松山サクラメント姉妹都市協会」の第2副会長のカオル・フッカー氏、会計担当ビル・キタガワ氏にお迎えや通訳をしていただき、サクラメント市庁舎を訪問した。

現在は、旧市庁舎の敷地内に、近代的な新庁舎が建ち、パスポート提示のセキュリティーチェックを受けて庁舎内を見学することとなった。庁舎内では、市長部局のマネージャーによる議案に対する市民向けの説明会が開催されており、大変関心が高い問題はホールが満杯になることもあり、そこでは、事前の協議はあるものの、質疑・応答が行われるということで、市民に対してオープンな議会運営であることがうかがわれた。また、市長の記者会見場で私たちの写真撮影をすることができた。

後に、市議会議員との交流となり、松山市にも訪問された第3地区市議会議員スティーブ・コーン氏、第7地区市議会議員ダレル・フォン氏、そのほか、スティーブ・コーン氏の秘書、来松経験もある元マツヤマ小学校の校長先生、札幌冬季オリンピックに出場された女性選手の方々と意見交換となった。

その場所は、2008年12月就任のケビン・ジョンソン市長のプライベート図書室での交流となり、予定外の市長にも面談がかなうかもしれない予感で緊張の一瞬でもあった。市長は、サクラメント市初の黒人で民主党。有名などころでは、元NBA（フェニックス・サンズ）プロバスケットボール選手であった。私たちの期待どおり、短い時間ではあったものの、面会をしていただき、握手をし、団長の挨拶の中で東日本大震災に対する義援金の御礼を伝え、名刺交換ができたこと、協会の方々のご努力に感謝するものであった。

サクラメント市議会議員の構成は、市全体で8地区に分類され、約1年間をかけ議員に選ばれるようだ。市議会議員との意見交換では、サクラメント市においても日本の状況と変わらず、失業・雇用問題が深刻な事態であるが、サクラメント市はロサンゼルスやサンフランシスコより地方都市に関わらず、前にも述べたがカリフォルニア州の州都であり、



（サクラメント市議会議員との意見交換）

州議事堂や州都に関わる施設も大変多く、職種別人口が一番多いのが公務員であるため、他の地域よりはまだ安定をしているとのことだ。また、治安も様々な人種が住む割には、状況は良いとのことであった。ゴールドラッシュで発展した町であり、歴史を感じるところと近代的なところがマッチし、落ち着いた印象を受けるとともに、他の場所よりも生活が安定しているような印象を受けた。会談の中で、本市について、静かな大変美しい町であることも話に出て、安心した。

後に、松山サクラメント姉妹都市協会会長ラルフ・スギモト氏のご配慮により、由緒あるレストランにて昼食意見交換会を開催していただき、現地の様子や松山の様子等有意義な意見交換の場となった。また、本年10月に、訪問団

で来松していただけるとのこと、全員で歓迎申し上げ、再会を約束していただいた。

昼食意見交換後、サクラメント市の「マツヤマ小学校」を訪問した。郊外の静かな地域に位置し、幼稚園から小学6年生まで様々な人種が学んでいるところであり、姉妹提携の際に訪問団が植樹した桜の木があるところである。

平成16年3月にサクラメント市の「マツヤマ小学校」と松山市立「さくら小学校」が姉妹提携をし、「さくら小学校」の子どもたちの教育課程で学習する英語を活用した交流を目指し、姉妹校間による“インターネットテレビ会議”を積極的に活用されている。今回のサクラメント市を訪問するにあたり、折しも平成23年12月13日（火）に姉妹校による“インターネットテレビ会議”があると伺い、視察団で「さくら小学校」を訪問し、テレビ会議の様子を見学することができた。時差があるにも関わらず、「マツヤマ小学校」の生徒の元気な様子や「さくら小学校」6年生の児童の運動会で見せた組体操、手紙の交換や自分たちの興味のある日本で有名な「AKB48」の話まで出て、言葉は違っても、お互いに気持ちは通じ合っていること、とても楽しそうな時間を共有していることが素晴らしく、未来に向けて国際感覚を身に着けてほしいと実感した一時でもあった。



（サクラメント小学校 6年生と一緒に折り紙を）

私たちの海外視察団の一番の目的である姉妹都市交流という観点から「マツヤマ小学校」の訪問に当たり、事前勉強会で子供たちと交流するために何が一番いいのか協議をした結果、“折り鶴・紙風船・紙飛行機”など、折り紙を中心に交流をすると決め、まず、視察団全員で折り方の講習を行い、参加に臨んだ。

このたびは、「マツヤマ小学校」の6年生と4年生の2クラスの児童との交流となり、グループ分けをし、折り紙の折り方での交流になったが、言葉が通じないため、私たちも事前に折り方の英語の単語ぐらい学習しておけばと反省し

たり、少し戸惑いながらであったが、子供たちも大変喜んでくれ、完成した折り紙を写真におさめたり、持参した折鶴やぶんぶんゴマを使い、大変楽しい一時を過ごすことができた。また、この際には、松山に訪問団として参加していただいた、「マツヤマ小学校」の元校長先生や、「マツヤマ小学校」が選挙区内にあるダレル・フォン市議にも同行をいただいた。

前日、私たち視察団が『サターの砦』という歴史的な建造物を見学に行った際、偶然にも地元の小学生が、日本でいう総合学習の一環としてこの場所に一泊し、電気も水もないところで民族衣装に身を包み、1848年に近郊のコロマで金が見つかり「ゴールドラッシュ」が始まり、サクラメントが州都にまで発展した歴史を再現する子供たちと家族に遭遇した。もちろん、学校の先生も同行しておられた。各人が当時の人物になり、自分の“出で立ち”を説明し、また、この中で、地域通貨を利用し色々な物が買える仕組みづくりなど、歴史を体験し次世代に伝える工夫がされており、大変感動を覚えた。写真は、家族の同意を得なければ取れないということがあり大変残念に思ったが、松山でもこのような体験はできそうな気がした。楽しく歴史を学びながら、地域の人たちと交流することは大切だと思う。

特に、本市の国際交流の目的は、教育関係について力を注いでいると感じた。「松山サクラメント姉妹都市協会」と「サクラメント松山姉妹都市協会」を中心に、訪問団派遣や受け入れなど交流をしている中、未来を背負う人たち、各小学校・中学校・高校の子供たち、大学の学生たちの様々な交流体験が行われていること、改めて実感をした。今後とも、未来を背負う子どもたちが、様々な未来に向けて前進することが重要であり、“世界に羽ばたく日本人”が生れることを期待したいし、私たちが手助けできる機会を持ち続けたいと深く感じる視察であった。